



アドバイザー 木村和弘の想い ～まちづくりの今を語ります～

まちに「新たな担い手」を！！

地域の活動をされている皆さんは基本「ボランティア」です。「まちのために！」と無給で奉仕をされています。その思いは本当に熱い。そんな「思い」に支えられているということは、活動を続けるかどうかは「する側」が決めるという事。活動を支える「熱い思い」や「努力することの意味」がなくなると、続きません。

逆の立場から考えてみましょう！まちの「新たな担い手」は「外」にいます。活動に参加していない人。その人たちの立場から考えると「ボランティア(無給奉仕)」を始めるには納得できる『それなりの理由』が必要なのです。「やるか、やらないか」は「その人」に決定権があるからです。その人たちに「新たな担い手」になってもらうには？

- ① 「熱い思い」を共有する、伝える。「上手に」伝える。
- ② すでに持っている、動いている人と「つながる」「受け入れる」
- ③ お金で解決する(生々しいですが、これも現実)

生野区まちセンは①～③のパターンをそれぞれで考えています。地域の皆さんに声かけていただければ一緒にお手伝いさせていただきます。
※今月も2部同封。担い手不足に悩む方にぜひ！お渡してください。





生野区の未来を想う交流会【まちカフェ】の11月を生野東の松野農園で開催しました！



「まちづくりをしたい」「生野区のエネルギーある方と交流したい」という人であれば、誰でも参加出来る【まちカフェ】も今回で7回目です。11月生野区にあるコミュニティファーム・松野農園に集まりました。

今回、皆さんに知ってもらいたいのが、生野区・小路東に住む留学生アンリー (Andika Diapari) です。



インドネシア出身のアンリー(26)は2014年に留学して日本へ。

現在、同志社大学で『生野区における多文化社会』の研究をしています。

「生野区は外国人が増えている」と感じているアンリー。どうすれば、外国の方が地域に行けるか、外国の人が持つ文化を地域の人々が理解できるか、が彼の課題です。

その実践として、彼は12/4(日)18:00～にWorkshopを開催します(場所は〒544-0015 大阪府大阪市生野区巽南5丁目16-30)。対象は生野区内外に住む日本人や外国人の方。参加費は500円でインドネシア料理・ナシゴレンを食べながら、多文化社会のコミュニティ・チーム作りについて考えます。

参加された方の「生野区で〇〇をやりたい！」を全力で応援する！それが【まちカフェ】です。次回は12/17(土)10:00～12:00。場所は巽南会館で開催します！